

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670104175
法人名	有限会社 渡辺
事業所名	グループホーム ひかりの丘
訪問調査日	平成21年3月4日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104175
法人名	有限会社 渡辺
事業所名	グループホーム ひかりの丘
所在地	鹿児島市西坂元町6番4-1号 (電話) 099-248-1116
評価機関名	特定非営利活動法人シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成21年3月4日

【情報提供票より】(平成21年2月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	18人, 非常勤 1人, 常勤換算 18.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(2月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さくらクリニック 池ノ上クリニック 安田歯科医院 延寿堂クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小高い丘の住宅地に建てられたホームからは、錦江湾と桜島を一望することができる。ホーム内には随所にソファやベンチが置かれており、利用者は思い思いの場所でゆったりとした時間を過ごしている。ケアの中では特にコミュニケーションを重視しており、利用者へ寄り添い会話する機会を多く持つことで信頼関係を築き、それぞれの方の個性を理解しながら、細やかで質の高いサービス提供に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム機能の地域への還元として、近隣住民からの介護相談に応じるなど、地域への貢献に努めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価における指摘については、全体会議で職員へ報告し改善策を検討している。自己評価については、運営者と管理者が行っており、今のところ職員全員での取り組みには至っていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議には、民生委員・第三者委員・行政・利用者ご家族など、多くの方々の参加があり、ホームの活動や状況、行事の報告を行い、質問があれば詳細を説明すると共に、あらゆる立場からの意見や要望を受けている。また、議題に合わせて、消防など専門職の参加も計画しており、サービス向上に活かせるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議にご家族が参加された際や面会時に、声かけをしてコミュニケーションを重視しながら、ご家族からの要望や意見を聞きだすように努めている。出された意見は、ミーティングにおいて職員全員で話し合いながら、周知・改善できるように取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	西坂元自治会に加入しており、回覧板や民生委員の方から行事の情報を得ており、地域のバザーに利用者とは出かけるなどしている。幼稚園児との交流も検討している。また、近隣住民からの介護相談に対応するなど、地域への貢献も行っている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本的で浸透しやすい理念を、開所時に職員全員で作りに上げている。	○	現在の理念を基本としながら、さらに地域密着型サービスとしての役割を目指した内容について検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングに理念を掲げており、職員がいつでも目にすることができる。日々のケアの方法について、その都度理念に基づいた対応がなされているかを話し合っている。また、運営者から職員への通信物を通して、ケアの方針について詳細な説明を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	西坂元自治会に加入しており、回覧板や民生委員の方から行事の情報を得ており、地域のバザーに利用者を出かけるなどしている。幼稚園児との交流も検討している。また、近隣住民からの介護相談に対応するなど、地域への貢献も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価における指摘については、全体会議で職員へ報告し改善策を検討している。自己評価については、運営者と管理者が行っており、今のところ職員全員での取り組みには至っていない。	○	評価の意義とねらいについて、運営者・管理者・職員で話し合いながら、全員で自己評価に取り組むことが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、民生委員・第三者委員・行政・利用者ご家族など、多くの方々の参加があり、ホームの活動や状況、行事の報告を行い、質問があれば詳細を説明すると共に、あらゆる立場からの意見や要望を受けている。また、議題に合わせて、消防など専門職の参加も計画しており、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から地域包括支援センター職員へ、状況報告や相談を行っており、2ヶ月に1回以上は来訪し、ホームでの暮らしぶりを見学してもらう機会を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「ひかりの丘通信」には、ホームでの活動内容や行事計画が記載され、一人ひとりの状況についてのコメントや金銭出納帳の写しを添えてご家族に発送している。また、通信以外でも、利用者の状態や活動内容を電話で詳細に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族が参加された際や面会時に、声かけをしてコミュニケーションを重視しながら、ご家族からの要望や意見を聞きだすように努めている。出された意見は、ミーティングにおいて職員全員で話し合いながら、周知・改善できるように取り組んでいる。		相談・苦情については記録に残すと共に、出された意見や改善結果を、個人情報に配慮しながら、通信物などを通して報告することを検討していただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員が対応することの重要性を認識しており、離職が最小限になるように努力している。職員交代があった場合も、新しい職員が利用者や馴染むまでは主に家事業務を行うなど、段階を経ながら係わるようにしており、ケアの継続性を重視している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員の経験や立場にあわせて外部研修を受ける機会を作り、スキルアップのための支援・協力も行っている。新人職員に対しても、事業所内研修を行い、知識・技術の向上に取り組んでいる。		さらなる資質向上のために、職員の段階に応じた計画的な育成に取り組むことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の勉強会や懇親会へ積極的に参加し、他事業所スタッフとの交流を通して情報交換の機会を作っている。また、外部からの見学や実習を受け入れており、今後は、こちらからも見学・実習に向かうことを検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来ていただいたり、こちらから病院や自宅へ面会に出向き、徐々に馴染めるようにしている。また、利用開始後に帰宅願望が強い場合は、職員と一緒に自宅まで外出するなどして、安心感を持ってもらえるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	歌や風習・料理法を学んだり、掃除の方法についてアドバイスをもらうなど、教えてもらう機会を多く設けている。また、家事を手伝っていただきながら、必ず感謝の言葉を伝えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩は自由にでき、食事メニューや飲み物を選択してもらう機会をなるべく多く設けている。返答に時間がかかる場合でも待つ姿勢を保ち、無理強いすることなく意向や思いを表出する機会作りに取り組んでいる。利用者の意見や希望については、ミーティングで職員へ周知し、必要に応じて話し合いを実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議が定期的に行われケアが実践されている。介護計画の作成においては、ケアマネジャーが中心となり、医師やスタッフ等の関係者から情報収集を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の有効期間を基に見直しを行っている。見直し以前であっても、本人の状態等、必要に応じて話し合いや情報交換が行われケアが実践されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の往診依頼や受診支援、有料散髪の定期的な訪問サービスおよび希望に応じた美容室への外出支援等を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診について、ご家族が付き添えない場合は職員が同行している。事前にご家族から聴取した治療への意向や、日々の観察事項について医師に情報提供し、受診結果はご家族に報告している。かかりつけ医には、日頃から相談や報告を行うことで、緊密な連携が取れるように努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期における看取りについて、利用前に事業所の方針を説明し同意をいただいている。利用者の状態に応じてご家族と話し合い、ケア会議において職員の意見も確認しながら、関係者全員で方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に管理者より、個人情報の取り扱いについての指導が行われており、書類等は適切に保管されている。日々のケアにおいては、羞恥心に対する配慮を指導しながら、尊厳についての学びの機会を作っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを尊重し、状態や希望に合わせて、それぞれのペースで起床や就寝、食事ができるように配慮している。また、利用者の日課の支援など、意向に沿った生活ができるように取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に一度は外食に出かけたり、利用者に希望のメニューを聞いて出前を取るなどしている。調理は調理師が行っているが、下膳や後片付けは力量に応じて利用者によって手伝ってもらっている。穏やかな雰囲気の中で、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週三日となっているが、利用者の状態や希望に合わせていつでも入浴できるように柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者に対しては無理強いすることなく、着替えを理由に誘導するなど、声かけや対応に工夫しながら支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯物干し・たたみなど、力量や経験を活かして、できることを役割分担しながら支援している。また、外食に出かけるなど、楽しみごとの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に二回の買い物やドライブ・散歩など、一人ひとりの意向や身体状況に合わせて、日常的な外出の支援を行っている。また、帰宅願望の強い利用者については、自宅まで職員が同行して外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠しておらず、出入りは自由に行える。利用者が外出される際は同行して見守りを行っている。近隣住民にも協力を得ながら、防犯上、夜間に施錠する以外は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと、年二回、夜間想定 of 通報・避難・消火訓練を全職員が参加して行っている。近隣の住民に呼びかけて協力者の確保をしており、マニュアル作成にも力を入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は調理師が作り、介護職との業務を完全に分担することで衛生面に留意している。メニューは栄養バランスを考慮しながら調理師が作っているが、専門職からのアドバイスを受ける機会は設けていない。水分摂取量は、利用者の状態や季節によって大まかな目安を定め、食事摂取量と共に観察しているが、記録には残していない。	○	管理栄養士に献立表を見せようなど、栄養バランスに関して専門的な観点からアドバイスを受ける機会を設けていただきたい。また、水分・食事摂取量を記録に残し、引継ぎ時に状況を把握しやすくするなど、職員間での情報共有に努めていただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
木					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きなサッシがあり、ウッドデッキには自由に出入りすることができる。周囲には花木が望め、季節を感じながら心地よく過ごせるように配慮している。ホーム内には複数のソファやベンチが置かれ、居間にはテレビが二台用意されるなど、思い思いの場所で過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	CDデッキ・テレビ・位牌・家具など、自宅で使い慣れた物を持ち込んでいただき、ご家族の写真や好みの壁飾りをするなど、思い思いの居室空間が作れるように配慮している。		